

平成20年度 学校評価報告書

浜田市立宇野小学校

項目	重点目標	成果・取組指標	自己評価	評価	学校関係者評価	評価	改善策等
豊かな心の育成	①人権・同和教育の推進	○相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いや行動を通し、互いを大切に育てる態度の育成を図る。 ・年2回の人権集会の充実を図り、互いを大切にすることを考える。 ○認め合い支え合い、差別や偏見を許さない学級集団作りを推進し、学級経営の充実を図る。 ・学級経営案に差別や偏見を許さない学級集団作りの手立てを明確化する。 ○自尊感情を高め、自ら自己実現を図ることができるよう進路保障の充実を図る。 ・学校行事を活性化し、満足感のもてる活動を積み重ねる。	・人権集会を2回実施し、全校で「言葉づかい」「なかよし宣言文」について話し合った。教職員は、意識して指導していると自己評価している。児童や保護者の「友人関係」に対する意識は良好になってきた。 ・子ども同士のもめ事が減り、学校が楽しいと答える児童の割合が増えてきた。 ・学校行事等の活動を積み重ねることで自信をもって行動できる子どもが増えてきた。	B	・学校での教えも限界がある。保護者、地域と連携しながら取り組んでいくことが大切である。 ・子どもを育てる上で、家庭が一番重要だと思う。家族の団らんを大切に、子どもとのコミュニケーションを図っていくことが大切である。 ・人の話をよく聞く姿勢が、大切である。話を聞くことで、子どもの素直さも出てくるように思う。	B	・年2回実施していた人権集会を学期ごとの3回に増やし、児童の実態に応じた内容を検討し、全校で本校の課題等について考えていく。 ・ワークショップ等を通して、自分の気持ちを相手や周りの人に伝えるスキルを身につけさせる。 ・学校行事の見直しを行い、児童が満足感のもてる活動を積み重ねる。 ・環境や雰囲気作りなど、隠れたカリキュラムの確認を定期的に行う。
	②心の教育の推進	○地域の「ひと」・「もの」・「こと」と出会い、心で感じ合うことのできるふるさと教育の推進を図る。 ・「松寿会」や「下府川を楽しむ会」、「学習ボランティア」の方々との交流を行う。 ○各教科等との連携を図り、様々な人とのふれあいや体験を通して、学ぶ道徳教育の推進を図る。 ・教科・領域等での外部講師の活用を行う。	・年間を通して、松寿会や下府川を楽しむ会、学習ボランティアの方々と交流し、ほとんどの子どもが宇野の町が以前より好きになったと答えた。有意義な活動であると保護者の評価も高い。 ・教職員も地域と結びついた教育の推進は、必要不可欠であると評価している。	A	・地域の「ひと」「もの」「こと」とのふれあいを大切にした教育への評価はとても高い。 ・小規模ならではの教育がなされ、とてもよい。地域との交流はとてもよい活動で、是非継続してほしい。	A	・総合的な学習の時間、児童会活動において、地域の「ひと」・「もの」・「こと」を活用したふるさと教育の充実を図る。 ・計画的に外部講師を招き、様々な人とのふれあいや体験を通して、学ぶ道徳教育の推進を図る。
	③生徒指導の充実	○相手に気持ちの伝わるあいさつや返事の定着を図り、より良い人間関係を築く。 ・あいさつ標語作りや掲示の工夫等、学校環境の充実を図る。 ○生活アンケートや教育相談を計画的に実施し、子どもの心によりそった支援・指導を行う。 ・生活アンケートや教育相談の充実を図る。	・あいさつ標語を全校で作成し、校舎内に掲示したことは、児童のあいさつへの意識を高める上で有効であったと教職員全員が評価した。 ・教職員と児童との信頼関係について、児童・保護者の評価は良好である。	B	・家庭でのあいさつや手伝いは、生活の基本である。地域でのあいさつは不十分だと感じる。 ・家庭内でのあいさつ、言葉づかい、身の周りの整理整頓等ルールを守らせたい。	B	・あいさつや返事に対する児童・保護者の意識を高めるために、方法を工夫しながら、計画的・継続的に指導する。 ・生活アンケート・教育相談の結果を分析し、共通理解のもと、全校体制で指導に生かす。
学力の定着	①基礎・基本の定着	○朝読書、作文タイム、全校一斉テスト等を実施し、読む・書く・計算の力の定着を図る。 ・月に1回の作文タイム、書き取り会、計算会を実施する。 ○自分の考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えることのできる力の育成を図る。 ・研究授業を1回は実施し、伝え合う力を視点に授業研究する。 ○子ども学習状況について家庭と連絡を密にし、家庭学習の充実を図る。 ・家庭学習の量や内容の見直しと点検、評価言の工夫。	・書く力の育成を目標に、2学期より全校一斉の作文指導を実施した。「書くことが楽しくなった」「書き方が分かった」等、児童の自信につながった。 ・研究授業は全員1回以上実施できた。 ・家庭学習の定着に向かって、量・内容・点検・評価言等の工夫を図ったことで、計画的・継続的に家庭学習に取り組む児童の割合が増えてきた。	B	・少人数であるため、一人一人への熱心な指導がなされてとても良い。 ・少人数学級であるため、競争心が薄くなりがちである。学習面で課題とまらないか心配である。 ・個人の成績は、個々の資質と関係があるが、集団で伸びる要因もあると思う。集団思考の必要性を感じる。手だてを今後考えてもらいたい。	B	・継続して、朝読書・作文指導・全校一斉テストを実施する。自分の成長の変化、伸びが意識できるような内容の検討を行う。 ・研究授業を最低1回は実施し、授業力・指導力の向上に努める。 ・家庭学習の量・内容・点検の見直しを行い、家庭学習の充実を図る。家庭との連携をさらに図っていく。
	②わかる授業の工夫と改善	○学習状況の把握に基づく評価を踏まえて指導を工夫し、指導と評価の一体化を図る。 ・自己評価、他者評価活動を取り入れ、指導に生かす。 ○学習支援員の活用により、TTや個別指導等を工夫し、個に応じた支援や指導を充実する。 ・1年国語、1年算数、5・6年算数に、非常勤講師を活用し、	・授業の中に、「e-黒板」「テレビ会議」「プレゼンテーション」等のICTを工夫して活用したことで、「楽しく分かりやすい」と児童の興味・関心が高まった。保護者の評価も良好である。 ・学習支援員の活用により、TTや個別指	A	・ICTを活用した授業は、見ても楽しい。子どもたちが、興味・関心をもって学習に取り組めることは良いと思う。今後も活用してほしい。 ・教職員の数が少ない中で、学習支援員さんの存在は、大きいと思う。多	A	・ICTを活用した学習内容を工夫し、児童の興味・関心を高める。 ・学習のゴールを明確にし、児童が見通しをもって学習できる学習過程を工夫する。 ・非常勤講師を計画的に活用し、複式カ

		<p>個に応じた支援や指導を行う。</p> <p>○課題意識をもって、主体的に学びとる学習指導過程の工夫や改善を行う。</p> <p>・学習のゴールを明確にし、見通しをもって学習できる学習過程を工夫する。</p>	<p>導等を工夫することができ、個に応じた支援・指導の充実につながった。</p> <p>「授業がよく分かる」と答える児童の割合が高くなった。</p>		<p>く目の目と手を子どもたちにかけていくことは大切だと思う。</p>	<p>リキュラム解消に向けて、T Tや個別指導等を工夫する。</p>	
	③総合的な学習の時間の充実	<p>○各教科と関連づけ、身に付けた「知識」や「学びの方法」を生かして主体的に問題解決を図る学習を工夫する。</p> <p>・年間指導計画を見直し、単元配列表の作成を行い、各教科との関連を明確にする。</p> <p>○地域の人、自然、文化、歴史などを生かした体験的な学習活動を推進する。</p> <p>・地域の人、自然、文化、歴史を取り上げた単元開発を行う。</p>	<p>・「身につけたい力」「他教科との関連」「ふるさと教育との関連」が不明確であったと教職員の評価は低かった。</p> <p>・児童・保護者とも、活動することへの評価は高いが、活動により身につく力についての意識は低い。</p>	C	<p>・この項目については、特に評価なし。</p>	<p>・地域の「ひと」「もの」「こと」を取り入れた題材を視点に、年間指導計画の見直しを行い、各教科との関連を明確にした単元配当表を作成する。</p> <p>・各学年の発達段階や目標に配慮した上で、3年と6年の合同学習として取り組み、2人の教員で支援・指導する。</p>	
健康	①基本的生活習慣の定着	<p>○就寝、起床、テレビの時間などについて、家庭と連携を深め、規則正しいリズムある生活習慣の定着を図る。</p> <p>・生活アンケートを実施したり、テレビの見方等、各家庭で目標を立て実践する活動を行う。</p> <p>○健康観察、連絡帳やアンケート等を活用して継続的な観察と支援を行う。</p> <p>・就寝時間、起床時間、テレビ・ゲームの時間等、継続的な観察と支援を行う。</p>	<p>・生活アンケート、各家庭での目標に向かっての取組の実施等を通して、児童・保護者の生活習慣定着に向かっての意識が高まり、評価も良好であった。</p> <p>・日々の継続的な観察と支援により、就寝時間、起床時間、テレビ・ゲームの時間への児童の意識が高まった。</p>	B	<p>・規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）は、元気の源だと思う。規則正しいリズムある生活習慣の定着を図るために、学校でいろいろな取組を実践されていることは、とても良いと思う。家庭や地域でも、その取組が継続して取り組めるように支援していくことが大切である。</p>	B	<p>・生活アンケートや各家庭での実践活動に引き続き取り組む。生活習慣定着に向けた児・保護者の意識を高めるために、取り組みの様子を情報発信する。</p> <p>・全教職員で、日々の継続的な観察と支援を行っていく。</p>
健康な体づくり	②健康で安全な生活に取り組む態度の育成	<p>○保健・体育の学習や朝の活動、食の学習を中心に、自分の健康を「知り・考え・実践する」健康教育を推進する。</p> <p>・栄養教諭との連携を図り、食の学習を計画的に実施する。</p> <p>○学校施設や通学路などの安全で安心できる学校環境の整備に努める。</p> <p>・「地域の安全マップ」作りを通して、安全への意識を高める。</p> <p>○子どもの命や安全を保障するために安全指導と危機管理体制の徹底を図る。</p> <p>・関係諸機関との連携を図り、防犯教室の実施や日々の安全指導の充実を図る。</p>	<p>・月1回の全校マラソン大会、朝の活動での5分間走、全校遊び等を通し、児童の運動への意識は高い。給食試食会にあわせ、栄養教諭の小児成人病予防の話は、保護者に好評で、食の学習への意識を高めた。教職員・児童・保護者ともに、評価は良好である。</p> <p>・「地域の安全マップ」作り、防犯教室の実施は、安全意識を高め、危機回避スキルの修得に役立った。</p>	B	<p>・安全への不安が高まる今、学校でできること、家庭でできること、地域でできることがある。地域・家庭・学校がさらに連携を図り、取り組んでいくことが大切である。</p> <p>・関係諸機関と連携しての防犯教室等の安全指導を実施してもらっているのはとても良いと思う。</p> <p>・宇野町見守りボランティアの活動も継続して取り組んでいきたい。</p>	A	<p>・栄養教諭との連携を一層図り、食の学習を計画的に実施する。年1回は、給食試食会を実施し、保護者対象に健康教育を行う。</p> <p>・「地域の安全マップ」作りを行い、児童の安全意識の高揚を図る。</p> <p>・関係諸機関との連携を図り、防犯教室を実施し、具体的な対応の仕方を学び危機回避能力を身につけさせる。</p>
開かれた学校づくり	①地域の教育力の活用と積極的な情報発信	<p>○地域の方との学びやふれあいを学習に生かすとともに、学習発表会や授業公開日等の機会を通じて、学習成果を発信する。</p> <p>・学習成果の発表の場の工夫を行う。</p> <p>○学校、学級、PTAの各種便りやホームページ、地域連絡会等により、学校の教育活動や子どもたちの様子について積極的な情報発信を行うことで、学校教育への理解と支援を得る。</p> <p>・学校の取組状況等の情報をいろいろな場と方法で発信する。</p>	<p>・地域の方との学びやふれあいを学習に生かすとともに、学習発表会や授業公開日等の機会を通じて、学習成果を発信することができた。児童の自信につながりだけでなく、地域との結びつきを深めた。教職員・児童・保護者ともに評価が高い。</p>	A	<p>・運動会や学習発表会、他、各種行事の子どもたちの活躍ぶりを見て、先生方が一生懸命、子どもの指導にあたっておられることが分かる。</p> <p>・減少する児童数の中での学校運営は大変だと思うが、子どもたちの頑張る姿がよく分かり、とても良い。</p>	A	<p>・松寿会、下府川を楽しむ会、学習ボランティアの方々との交流の継続を図ると共に、地域と連携して、地域の方とのつながりを深める取組を進める。</p> <p>・情報発信を量的・質的に充実させる。</p>
開かれた学校づくり	②学校評価の実施と活用	<p>○子どもや保護者、地域を対象とした学校評価を実施し、その結果について保護者会や地域連絡会による外部評価を通じ、学校経営の改善に活かす。</p> <p>・学校評価の実施と結果分析、学校経営の改善点の明確化と報告の実施。</p>	<p>・教職員、子ども、保護者、地域を対象に学校評価を実施し、改善点を明確にして、結果を保護者会、地域連絡会で報告した。今後、評価項目の系統性を考え、評価項目の見直しが必要である。</p>	B	<p>・学校評価の実施で、学校の取組に対して、日頃思っていることを伝えることができた。課題も出されたが、改善点も明記されていて、意見が活かされていることが分かる。</p>	B	<p>・学校評価の評価項目の見直しを行い、結果分析・改善点の明確化を図るとともに、学校経営の改善に活かす。</p>

評価 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：一層の改善や努力を要する状況